



貫気別ファミリーフェスティバル 流しそうめん (6/30)

一人ひとりがまちづくりの主役です

広報

びらとり

8
2013

No. 627
月号

輝くびらとり未来につなごう

□今月号のトピックス□

- イザベラ・バードと平取の関わり
- まちのひろば
- 教育委員会からのお知らせ

- すこやかだより
- 図書館へいこう

特集！知っていますか？

イザベラ・バードと平取の関わり

かか

イザベラ・バード (Isabella Lucy Bird)

1831年10月15日～1904年10月7日

英国のヨークシャーにて牧師の長女として出生。幼少期の病弱によって転地療養をしたことがきっかけとなり、旅行に憧れるようになる。

当時の日本は外国人が簡単に旅行できるような国ではなく、まだ海外に知られていない地域を訪れようと女性旅行家として北海道を目指した。



イザベラ・バードという英国人の人物を知っていますか。この女性は、明治維新までもない頃に東北を通じて北海道に渡り、平取を目指した女性旅行家として近年、注目されています。彼女は、蝦夷と呼ばれていた土地に住むアイヌ民族に大きな関心を持ったと手記にも記されており、開国までもない頃に日本のアイヌ民族について

又民族についての情報をどこで知り得たのかなど興味深く研究されています。

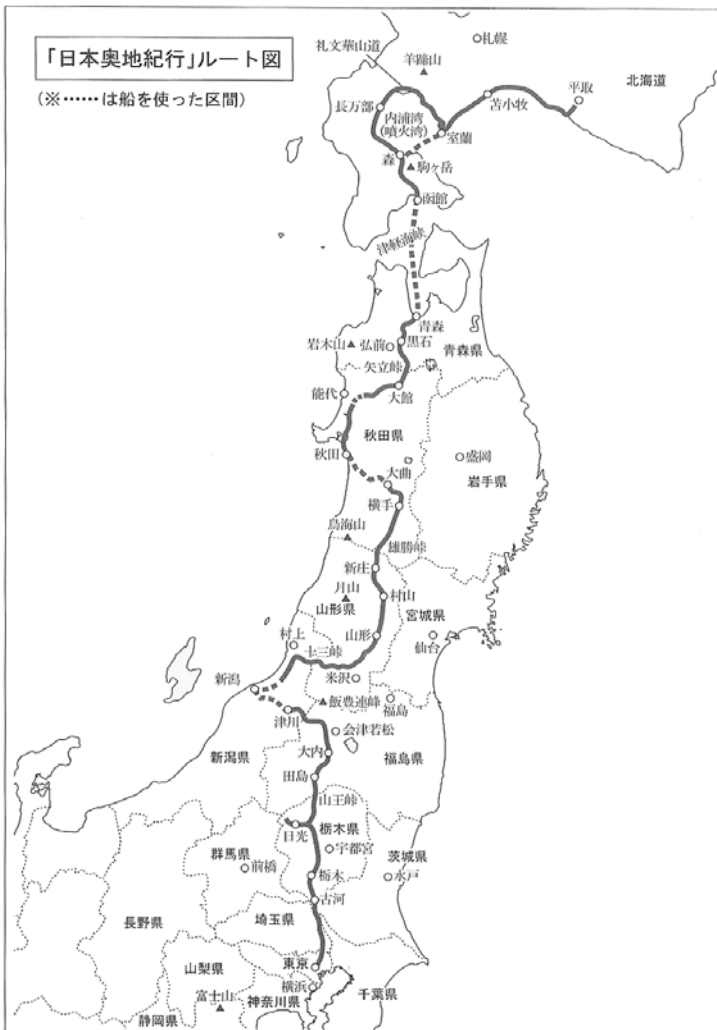
当時の北海道は、日本人にとっても未開の地としての認識が抜けきれておらず、女性が無謀とも思えるような旅をし、当時の様子を旅行記として残しています。ここでは、彼女がどのような旅をして平取へ来たのか、また、どのような体験をして後世に伝えるべく残したのかを解説します。

バードの目的と日本への旅

イザベラ・バードは、東京から北海道を目指して旅をしますが、関心の対象はアイヌ民族の人々であると記しており、平取を目的地にしていたことがわかります。バードのアイヌ民族への関心は、北海道に入ってからより顕著となり、明治期に入った当時の日本人のアイヌ観が差別的な見方から離れていない一方で、非常に人間的な民族としてアイヌ民族を評価し、日本人よりも親近感を持ったのではないかと想定されています。

目的地の平取への訪れ

イザベラ・バードが北海道へ渡り沙流流域に入ると、平賀・紫雲古津・去場・荷菜とコタンの村を通って平取へ訪れました。平取に入ってから首長ベンウリク宅に滞在しながら数日間を過ごし、積極的にアイヌ語の聞き取りなどアイヌ社会について調査し、当時の様子を残したとされています。この旅行過程も含めてバードは、各地の感想や調査結果などを「日本奥地紀行」として残しています。



イザベラ・バードの歩いたルート
『イザベラ・バード紀行』(伊藤孝博著 無明舎出版 2010年)

イザベラ・バードが残した功績

イザベラ・バードが残した「日本奥地紀行」では、当時の日本人の様子や景色はもとより、特に北海道に入ってからアイヌ民族について興味深く書かれています。アイヌ民族について興味深く書かれています。アイヌ民族の工芸品を文化資料として収集してたとされているH. V. シーボルト氏に出会ったことが書かれています。このシーボルト氏の「小シーボルト蝦夷見聞記」には、アットウシなどについての記載もされており、本年3月に二風谷イタと二風谷アットウシが、北海道初の伝統的工芸品として指定を受けるにあたっての参考となったとされています。



小シーボルト蝦夷見聞記
(平凡社)



日本奥地紀行
(平凡社)

現在の普及活動

イザベラ・バードが、どのような景色を臨みながら歩いたのかを調査し、エコ・ツーリズムに活かそうと有志者・大学・行政・企業が協力して取り組みが行われました。また、有志者で設立された「イザベラ・バードの道を辿る会」では、バードが沙流流域を歩いた軌跡を、日高町を起点とした平取町までの28箇所案内標識を設置し、また、バードの解説板も途中とゴール地点の2箇所設置され、フットパス(注①)が行われています。



フットパスの案内標識(左)と解説板(右)

注①フットパス
イギリスを発祥とする森林や田園地帯、古い街並みなど地域にある昔からの風景を楽しみながら歩く【Foot】ことができる小径【Path】のこと

イザベラ・バードの最後

最後の旅行となったのは、明治33年からのモロッコの旅で、明治37年にエディンバラで病死したとされており、バードが生涯をかけた数々の旅行は、医者勧めによる転地療養が目的であったとされ、日本旅行記の中でも背中痛みについての記述が出てきます。

バードが残した著書による平取についての記述は、当時を知る貴重な資料で、アイヌ文化を伝えるうえで今後重要なものとなります。



晩年のバード

イザベラ・バードの道を辿る会

イザベラ・バードが残した軌跡を調査し、その功績を継承する活動を行う有志団体。大学教授を会長に、平取部会・白老部会の会員にて2007年に設立。

外国人女性として平取まで旅行し、優れた旅行記でアイヌの世界を欧米に紹介したイザベラ・バードの道を辿り、エコ・ツーリズムに活かす取り組みを実施。



イザベラ・バードの道を辿る会では、解説冊子を平取町役場と図書館(ふれあいセンターびらとり内)にて、各100部限定で無料配布しています。

問合せ先

イザベラ・バードの道を辿る会
事務局 窪田
✉:ruriko-kubota@nexyzbb.ne.jp

びらとり まちのひろば

宇梶剛士トークショー (6/27)

テレビドラマや映画などで活躍されている俳優の宇梶剛士さんのトークショーが二風谷生活館で開催されました。

トークショーでは、宇梶さんの生い立ちから学生時代、俳優になるまでの今までの道のりをお話していただきました。

◎この事業は「町民税 1% まちづくり事業」を活用し開催されました



貫気別ファミリーフェスティバル (6/30)

貫気別地区の恒例行事であるファミリーフェスティバルが、青空のもと貫気別生活館前で開催されました。

午前中はウォークラリー & クリーン作戦で貫気別市街をきれいにし、午後からは流しそうめん・焼き肉でお腹を満たし、その後は豪華抽選会・恒例のもちまき大会でまつりの最後を締めくくりました。

ふるさと給食「ニシパランチ」(7/1)

町のおいしい農畜産物を使ったふるさと給食「ニシパランチ」が町内の全小中学校で提供されました。

今回の献立は平取高等学校生が考案した「ピラタコライス」(平取産トマト・ななつぼし・黒豚を使用)で、沖縄料理のタコライスにびらとりトマトを使用することから「ピラタコライス」と命名されました。



第 11 回小林組ミニ動物園 (7/2)

株式会社小林組が主催しているミニ動物園が同社敷地内で開催され、町内から約 250 人の子どもたちが集まりました。

長沼町のハイジ牧場からやってきたフェレットやイグアナ、アヒルにポニーなど、普段触ることのできない動物たちを目の前にして、子どもたちは持ってきたエサをあげたり、抱いたりして動物とのふれあいを楽しんでいました。

交通安全ヘルメット寄贈 (7/4)

町建設協会・町交通安全推進委員会から、町内全小学校の児童へ自転車用交通安全ヘルメット(211個)が寄贈されました。

この日は建設協会の五十嵐千津雄会長が平取小学校を訪れ、平取小学校児童会にヘルメットを手渡し、交通ルールを守り正しく自転車に乗るよう呼びかけました。





第27回モンキーリバーランド夏まつり (7/7)

今年で27回目を数えるモンキーリバーランド夏まつりが、汗ばむ陽気の中ふれあいセンターびらとりの駐車場で開催されました。

会場には様々なアトラクションや模擬店、ヤマベのつかみどり、ピエロの「りんりん」によるバルーンパフォーマンスなど、楽しいひとときを過ごしていました。

北海道オールドカーフェスタ in びらとり (7/7)

モンキーリバーランド夏まつりの協賛イベントとして、北海道オールドカーフェスタ in びらとりが商工会前駐車場で開催されました。

会場には、いすゞ 117 クーペやニッサンスカイラインハードトップ（通称ケンメリ）など時代を彩った往年の名車およそ50台が全道各地から集結し、観客の目を引いていました。



第29回全町老人スポーツ大会 (7/10)

高齢者の親睦・健康づくりを目的とした全町老人スポーツ大会が町民体育館で開催されました。

参加者は風船割りリレーや玉入れなど全9種類の競技を行い、順位を競いながらも和気あいあいとした雰囲気で行われました。なお、今年はCチーム（荷負・貫気別・旭・芽生）が優勝を飾りました。

伝統的工芸品指定記念フォーラム (7/27)

本年3月に二風谷イタ・二風谷アットウシが伝統的工芸品に北海道で初めて指定されたことを記念したフォーラムが沙流川歴史館で開催されました。

講師の北海道大学山崎幸治准教授からは指定を受けた2品の紹介を、北海道大学大学院伊藤直哉教授からは今後の伝統的工芸品の展望について講演を受けました。



全国大会出場おめでとう！

第48回全国道場少年剣道大会（7月30～31日、日本武道館）の小学生団体の部に出場する平取義経剣心会の選手5名が町長室を表敬訪問し、全国での活躍を誓いました。

小山和馬くん 小林駿大くん 中村七生くん 木村朱稀さん 木村萌さん
（二風谷小5年）（二風谷小5年）（富川小6年）（貫気別小5年）（二風谷小5年）